

新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開

～「探究」（総合的な学習の時間）を核としたカリキュラム・マネジメント～

北海道教育大学附属函館中学校 研究部

本校の概要

開校	昭和22年4月1日
教員数	常勤：18名（大学教授と兼務の校長を含む） 非常勤（教科）：7名
生徒数	314名（令和元年度） （第1学年105名、第2学年104名、第3学年105名） ※平成26年度入学生徒から35人学級へ移行
特色 ある 取組	BYODによるchromebookの活用 ※校内各所にアクセスポイント設置（関係者専用Wi-fi） ※活用時間や場所を固定しないシームレスな活用

HP http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_chu/

Facebook <https://www.facebook.com/huefzhak/>

E-mail gunji.naotaka@h.hokkyodai.ac.jp



1. 研究主題設定の理由 (冊子pp.3-4)



研究主題

「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」
(平成29年度～平成31年度)

平成33年度 次期「中学校学習指導要領」全面实施

平成28年12月21日 中央教育審議会 答申
平成29年 3月31日 新学習指導要領 告示
平成29年度 「周知・徹底」期間
平成33年度 全面实施（中学校）

「国の先端的な研究校、大学の教育実習の機関としての機能、
地域の中核となる学校としての役割」

新学習指導要領の趣旨を実現する
「新学習指導要領のモデル校」としての役割



2. 研究の経緯（1年次）（冊子pp.5-12）

研究1年次
研究副主題

『学びの地図』に基づいた各教科等の単元のデザイン（平成29年度）

中教審答申（H28.12.21）・新学習指導要領（H29.3.31）

各学校は、学校教育目標等を実現するために、

- 学校として育成を目指す資質・能力を明らかにする
 - そのためにふさわしい教育内容を構成する
- という手続きで教育課程を編成

「学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡す」役割

子供、保護者、地域、社会の関係者が活用できるもの

「学びの地図」

単元や題材のまとめ（＝長期的な視野）の中で、子供たちが「何ができるようになるか」を明確にしながら、学習内容と学びの過程を組み立てていく。

単元や単位時間にどのような役割を担わせるのかを明確にする。

資質・能力の育成を目指すために、
単元において学習内容や学習方法等を構成すること
＝「単元のデザイン」

2. 研究の経緯（1年次）（冊子pp.5-12）



本校が育成を目指す資質・能力の設定

「年間単元配列シート」の作成

「資質・能力シート」の作成

「単元デザインシート」の作成

授業実践

評価・検討

カリキュラム（各シート）の改善

3. 研究の経緯（2年次）（冊子pp.12-18）



研究2年次
研究副主題

カリキュラム・マネジメントを支える『評価』の工夫
(平成30年度)

カリキュラム・マネジメント

生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てて行くこと

教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと

教育課程の実施に必要な人的または体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

研究1年次の課題

「成果を評価し、カリキュラムの再構成や授業改善につなげることで新たな教育を築いていく」こと

編成・実施したカリキュラムに対する評価と適切な改善を日常的・単元ごとに取り組んでいくための考え方と具体的な方策等を検討し、取り組んでいく。

3. 研究の経緯（2年次）（冊子pp.12-18）



本校が育成を目指す資質・能力の設定

「年間単元配列シート」の作成

「資質・能力シート」の作成

単元のデザイン（「単元デザインシート」の作成）

授業実践

評価・検討

カリキュラム（各シート）の改善

3. 研究の経緯（2年次）（冊子pp.12-18）



(1) 単元のデザイン時における評価計画の立案

評価資料・情報の意図的な計画と収集に努める

(2) ① 単元前における資質・能力シートの学習者への提示

その単元で育成を目指す資質・能力を生徒に示す

(2) ② 単元後の学習者による自己評価の実施

評価規準に基づいて生徒が自らの学習を振り返る

自己評価はgoogleフォームを活用して実施する

(3) 単元（カリキュラム）の評価と改善

デザイン・実施した単元が、資質・能力の育成に資するものとなり得ていたかを評価する取組を、継続的・日常的に行うために

「改善」の方向性として、「『次年度の同じ単元』の改善」と「『今年度の次の単元』の改善」を見据える

3. 研究の経緯（2年次）（冊子pp.12-18）



研究2年次の結果

成果

- ①カリキュラム・マネジメントを展開する際の評価について意義を共有することができた
- ②探究においては、それぞれの学習活動ごとに実施した自己評価を実施して次の学習活動につなげるような展開を構築できた
- ③各教科で育成された資質・能力を発揮するとともに、「市民として求められる資質・能力」の育成を直接的果たす場として「探究」を位置づけることができた

課題

- ①単元前における資質・能力シートの学習者への提示や単元後の学習者による自己評価の実施に偏りが見られた
- ②具体的な検証を可能にする評価規準の工夫が必要
- ③情報活用能力や市民として求められる能力の位置づけを整理し見直すとともに、資質・能力シートや単元デザインシートの改良
- ④各教科と探究との関係について整理する必要がある

4. 研究の目的と目標 (冊子p.18)

目的

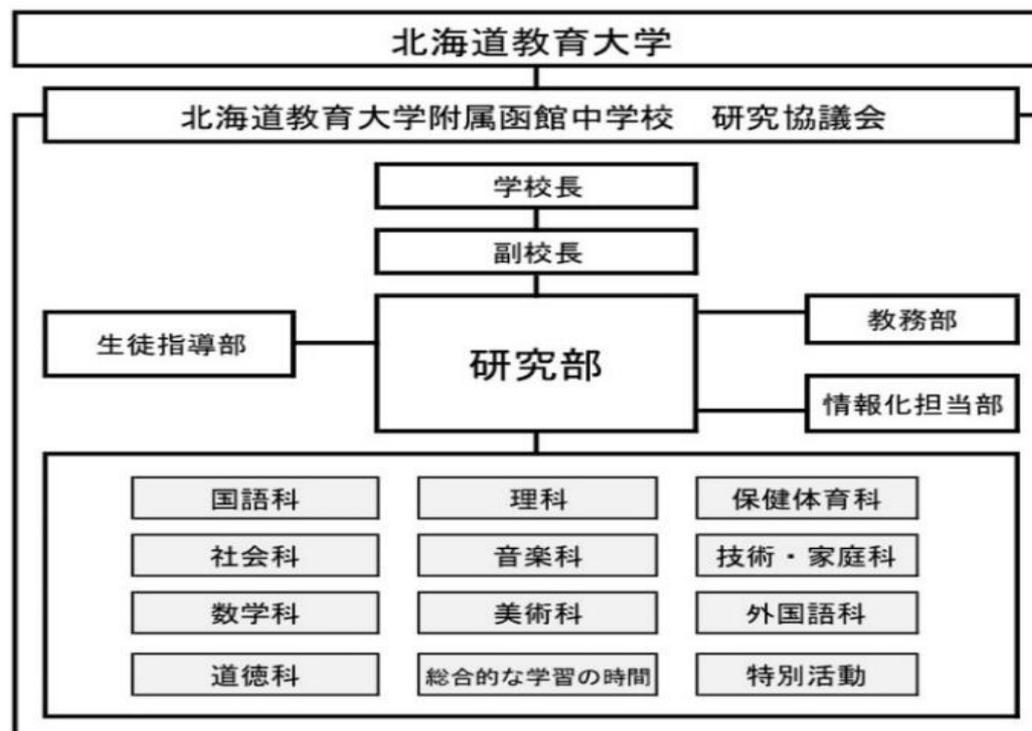
中教審答申や新学習指導要領の趣旨を実現するための
中学校における教育の展開

目標

新学習指導要領全面実施の前年度（平成32年度）に、教育
課程編成等において参考となる「学びの地図」等の完成

5. 研究体制

(冊子p.18)



6. 研究内容 (冊子pp.18-22)



研究3年次
研究副主題

探究を核としたカリキュラム・マネジメント

(令和元年度(最終年度))

(1) 評価規準の工夫

担当者評教科に関わらず活用できる評価規準の設定

(2) 資質・能力シートと単元デザインシートの改良

資質・能力シートを廃止し、単元デザインシートを改良し、「探究」で育成を目指す資質・能力や学習内容とのつながりを記述する

(3) 教務部との協働による「研究成果の汎用化」

研究部ベースで推進してきた内容や成果を、教務との協働で取り組む

7. その他の取組



(1) 道徳科を見据えた授業実践の蓄積

(2) 本校としての「市民として求められる資質・能力」の設定とその育成の中核としての特別活動の改善

(3) 探究的な学びを創るためのリレー講演会「ツキイチプロジェクト」

探究的な学びを創るためのリレー講演会 北海道教育大学附属函館中学校

ツキイチプロジェクト 2018

本校は、「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」を学校研究テーマとして、とくに生徒が探究的に学習することを大切に授業づくりに取り組んでいます。昨年度は、北海道教育大学の教員による講演会を連続で開催しました。本年度は、地域で活躍される方々を講師に選んで、生徒の興味・関心を広げ高めることや、そのきっかけを得ること、より広い視野を持つことによる「探究的な学び」の素を育成することを目指します。

日程	13:15~13:20	生徒入场
	13:20	講師入场
	13:25~14:55	講演(途中休憩)
	14:55~15:00	質疑応答



第1回 6月29日(金) 第2回 10月12日(金)

松浦 俊彦氏
北海道教育大学 館校教授

バイオメテクス
 ~生物から学ぶ環境技術~

稲垣 忠氏
東学院大学文学部教育学科教授

情報活用能力

第3回 11月19日(月)

福田 一彦氏
江戸川大学教授・江戸川大学睡眠研究所長

睡眠

第4回 12月14日(金)

齋藤 利仁氏
附属 館中学校 父母と先生の会 前会長

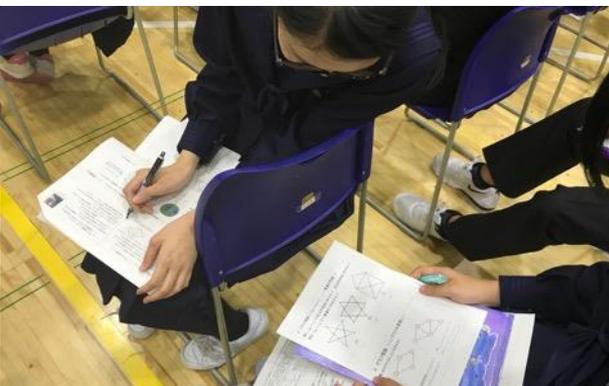
働くこと
地域に貢献すること

第5回 1月25日(金)

池ノ上 真一氏
北海道教育大学 館校 教授

観光

【お問い合わせ・申し込み先】
 北海道教育大学附属 館中学校 研究部
(研究部：郡庁)
 電話：0138-46-2233
 FAX：0138-47-6769
 メール：gunjinaotaka@h.hokkyodai.ac.jp



1 学 年	探究 基 礎	5月	「探究」オリエンテーション	「探究」の目標や概要を把握します。
		5~7 月	探究のための基礎的・基本的なス キル習得と演習	「探究」の学習に最低限必要となるスキルを身に付け ることを目指して学習します。
		8~3 月	グループ探究活動A (7人グループ)	「探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習」で 身に付けたスキルを実際に活用して、自分たちで課題 を設定し、情報を収集、整理・分析をして、発表まで行 います。
2 学 年	探究 充 実	5~ 11月	グループ探究活動B (3人グループ)	「グループ探究活動A」で身に付けたスキルを実際に活 用したり、新たに生じた疑問に基づいて自分たちで課 題を設定し、情報を収集、整理・分析をして、発表まで 行います。
	探究 発 展	12~ 1月	卒業研究 (個人)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習や生活での経験に基づいて、自 分で課題を設定し、情報を収集、整理・分析を して、発表まで行います。 ・附属函館中学校の全教員で指導を行います。 ・卒業論文を執筆し、提出します。 (締切: 7月31日16時)
		1~3 月	学びを生かした地域貢献(個人)	自分の学びの成果を地域貢献のために何ができるか を考え、実際に行動します。